

「北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会 第3回会合」を開催

北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会（以下「協議会」）は、令和5年8月28日（月）、北陸総合通信局会議室及びオンラインのハイブリッド方式により、第3回会合を開催しました。

前半は、事務局から本年4月に改訂された「デジタル田園都市国家インフラ整備計画（改訂版）」（以下「改訂版」）の説明、総務本省から「光ファイバの未整備地域の解消・民設移行の促進を支援する施策」の説明を行いました。

また、改訂版の内容を踏まえ、総務省地域情報化アドバイザーの井上あい子氏から「FTTH公設設備の民設移行への成功事例」として、京都府南丹市の例をもとに、地方自治体が公設設備の民設移行に取り組む上で必要な考え方及びプロセス、民設移行により得られる効果についてご紹介いただきました。

後半は、事務局から、北陸3県の自治体を対象に実施した調査で得られた5G等整備要望エリアについて、通信事業者とのマッチング結果を踏まえた要望自治体への追加ヒアリングの結果を報告し、通信事業者からコメントをいただきました。

また、今後の進め方として、通信事業者からの回答を受けて要望自治体が個別協議を希望する場合は、協議の場の設定を検討することとしました。

前半及び後半の説明後、（1）5G等整備要望エリアの黒部宇奈月キャニオンルートについて電力会社との調整状況、（2）FTTH公設設備の民設移行に伴う懸念点、（3）海底ケーブルの日本海側ルートの整備予定時期などの質問や意見が出されました。

本協議会は、デジタル田園都市国家構想の実現に向けて、今後、引き続き5G等のインフラ整備のマッチングを行うとともに「ワイヤレス・IoTソリューション」の社会実装において、地域共通の課題解決モデルとして広く横展開できる北陸管内の先進事例を紹介し、議論を深めていく予定です。



冒頭で挨拶する
菱田北陸総合通信局長



会合の様様